

飯豊町会場の懇談会の概要

10月17日(火)18時30分～
飯豊町総合センター

参加者

<小・中学校関係者>

飯豊町立第一小学校PTA 3名、第二小学校PTA 4名
手ノ子小学校PTA 5名、添川小学校PTA 2名
中津川小・中学校PTA 4名、飯豊中学校PTA 5名
南陽市立沖郷小学校PTA 2名 南陽市立宮内小学校PTA 1名
長井市立北中学校PTA 4名 計 30名

<県教育庁>

教育次長、高校教育課高校改革推進室長
他 高校改革推進室職員 4名

懇談に先立って

- ☞ 「県立高校教育改革実施計画」の概要について説明
- ☞ 「置賜農業高等学校飯豊分校」の現状等について説明

質疑応答の概要

- これまで地区にあった学校がなくなるというのは寂しいと思う。子どもが少ないということがあり、小学校・中学校を見てもそうなので改革は必要だが、いい方向で進めてほしいと思う。先に、小国町の一貫教育の状況について聞きたい。
- ☞ 平成13年度から3年間、文部科学省の研究開発学校の指定を受けた。さらに、16年から3年間の研究の延長指定を受け、平成18年度は最後の年になっている。成果としては、学力の向上が見られたこと、地域の支援により学校と地域の連携が高まったこと、先生方の交流により、指導力が向上したことなどがあげられる。
- 資料には1学級減ということが17年度から順に書かれているが、学科の削減については根拠があるのか。高等学校の教育目標の観点からどういう学科を残していこうという議論があって、この計画になったのかを聞きたい。学科の改編に当たっても、普通科と専門学科の統合に

ついてどのように考えているのかを聞きたい。

☞ 学科としては、まず、大きいくりとして、理数科、音楽科、体育科などを含む普通科がある。それと職業に関する専門学科としては、農業、工業、商業、水産、家庭、看護がある。その他に総合学科があり、大きく普通科、専門学科、総合学科となる。その割合については、平成15年の調査で、「どの学科に進みたいか」という質問に対して、中学3年生は、普通科を希望する生徒が62.2%、専門学科は28.2%、総合学科は9.4%となっている。おおよそ、普通科6、専門学科3、総合学科1の割合になっている。現在の本県の学科の実態は、普通科が約58%、専門学科が約37%、総合学科が10%以下になっている。全国的には普通科の割合は7割ぐらいということも含め、生徒と保護者のニーズを踏まえながら、学校の実情なども考慮して、普通科については、現状又は若干高め、専門学科については若干低めに、総合学科については若干高め、学科の定員の割合を考えている。このことは、学区や地区だけではなく、全県的にそうなるように持っていきたいと考えている。

○ 霞城学園のような学校を南学区にも作るつもりなのかを聞きたい。

☞ 現時点で、南学区に多部制の定時制の学校を設置することは厳しいと考えている。霞城学園のような昼間定時制が全国的に増えている状況はあるが、飯豊分校のかわりにそういう学校を設置することは難しい。昼間定時制については、今後、西置賜地区の再編の中で検討していくことになると考えている。

○ この懇談会についてであるが、今後きちんと意見を聞く場を設けるのか。

子どもたちの選択肢が少なくなり、地域の学校がなくなるのは反対である。

飯豊分校は少人数の学校で、そういう学校を希望して来ている子どもたちがいる。そういう子どもたちの行き場所がなくなるのではないかと考えるがどうか。

☞ 懇談会の内容については、この後、西置賜地区の再編について検討を進める中で、いろいろな意見を反映させていきたいと考えている。飯豊分校の募集停止については、今後も意見を聞く機会を設けていきたいと考えている。

少人数の学校を希望している子どもの選択肢が減ることだが、確かに減ることにはなる。高校教育の本質的な役割は、発達段階、年齢に合わせて力をつけることと考えている。小学校とも違い、中学校とも違う高校の大切な部分である。ある程度の学校規模を維持しながら、知識などを身に付けさせ、一定の集団の中で切磋琢磨して、触れ合いながら、広い視野や社会性を身に付けさせることが、高校の段階では必要だと考えている。

飯豊分校に関して付け加えると、本校にしても、3学級120人規模で大きい学校とも言えないし、地域の中には2学級規模の学校もある。必ずしも大きい学校しか残っていないということではない。

○ 私立高校が、齋藤知事に学費の助成願いを出した、ということが報道されていた。公立の学費が若干上がってもやむを得ないと考えている。財政面の話があったが、そこまで視野に入れて考えることが必要と考えるがどうか。

☞ そういうことも視野に入れている。

意見交換の概要

○ 平成 26 年までに 55 学級削減する中で、特に南学区についてはどの辺まで減らすつもりなのかを聞きたい。

今日参加するまでは、「県立高校教育改革実施計画」のことをほとんど知らなかった。平成 26 年は、現在の小学校 1、2 年生が関わってくることになる。PTA に働きかけて、議論してもらって、ぜひ納得してもらえるものを作ってもらいたい。

☞ 1 学年の学級数が 1 学級、2 学級は、望ましい形ではないと考えている。県内には、県立高校が 48 校、市立が 2 校あり、合せて公立 50 校あるが、1 学級ずつ減らしていくと、規模の小さい学校になってしまうので問題がある。だから、統廃合も必要になってくると考えている。

学校の適正規模は、1 学年あたり 4～8 学級程度と考えている。子どもたちや保護者、教員に対してのアンケート結果によると、適正規模を 4～5 学級とするものが一番多かった。次が 6～7 学級である。また、全国的にも、本県と同じように、4～8 学級を適正規模とする県が 28 ほどある。現在 3 学級、2 学級の学校もあるが、基本的には 4～8 学級が望ましいと考えている。

「県立高校教育改革実施計画」について、昨年、飯豊町で、8 月に説明会を実施した際は、町内の方のみならず多くの方に集まっていた。今回は保護者を対象に実施しているが、機会あるごとに説明を実施している。

これまで実施した説明会や懇談会の内容については、インターネットでアクセスできるので見ていただきたい。

○ 少人数指導の良さがある中で、どちらが正しい姿だとか、どちらが正しくないのかなどとは言えない。多様な価値観に対応する多様な学校をつくるという話の中で、霞城学園には通学できない状況がある。そういうことへの対応を計画に組み入れるべきではないか。

☞ いろいろなことを考慮しながら再編整備を進めていかなければならない。仮に、飯豊分校がなくなるから他のものを飯豊に、ということは厳しいということを理解していただきたい。飯豊分校でなければならないということではなく、人数の多くない学校が近くにあるということも理解していただきたい。

昨年、定時制・通信制の在り方について検討した。定時制・通信制については、さまざまな事情のある生徒が入学していて、働きながら学ぶ生徒が少なくなっている。例えば、不登校を経験して再入学している生徒が多くなっているという状況もある。検討の中で、全体としては、地区の再編整備の中で考えていくことが望ましく、飯豊分校の代わりに、昼間定時制の学校を設置することは難しいというまとめになった。

○ 少人数学級編制の「さんさんプラン」が山形県にはある。高校の定員は 40 人 1 学級。小・中学校のように定員を少なくすることはできないのか。

☞ 「将来構想検討委員会」の中で、少人数学級編制について、高校まで実施できないのかを検討した。小学校では 1 人の先生が基本的にすべての教科を教えることになるが、小学校と中学校の一番大きな違いは、中学校では教科担任制になるということである。小学校で「さんさんプラン」ができるのは、1 学級増やすためには 1 人の教員を増やすだけで実施できるからである。中学校は、1 学級増えると、英語は○時間、数学が○時間、国語が○時間、・・・と増えていくことになり、増えた分について、ある先生に 2 時間分、別な先生には 3 時間分などということになり、現実として難しい。

中学校 1 年生だけに、数学と英語の教員を重点的に配置して、少人数指導を実施しているが、「さんさんプラン」のような少人数学級編制は実施していない。

高校の場合、ホームルームは 40 人で、これを生活集団と呼んでいる。実際の授業は一週間に 30 時間あるが、それをすべて 40 人でやっているわけではない。例えば、芸術には、音楽、美術、書道があり、2 クラス 80 人を 3 つに分けたり、体育でも男子と女子に分けたりしている。これを学習集団と呼んでいる。1 クラスの生活集団を 40 人としているが、学習集団としては、1 人の教員に対する生徒の人数は 10 数人になっている場合などもあり、実態として少人数学習指導が行われているのである。

「高校標準法」で 40 人と決められているものを、山形県だけ実施するとなると、膨大なお金がかかることになるが、本県も財政状況が極めて厳しい。